

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

231号 2023年3月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

こどもは国の宝、こども医療センターは神奈川県の宝、

オレンジクラブはこども医療センターの宝

神奈川県立こども医療センター 総長 町田治郎

はい、良い子のみなさんこんにちはー！ 総長の町田治郎です。今年の3月で定年退職となります。みなさまには22年間大変お世話になりました。各セクションの垣根が低く、協働できるメディカルスタッフはもちろんのこと、ボランティアのオレンジクラブ、ファシリティドッグやリラの家など、こどもを笑顔にする仲間たちが強力な味方となってくれました。最近では小児がんセンターの仲間たちが『神奈川県立こども医療センター国際小児がんデー特設サイト』というホームページを作ってくれました。下の方にスクロールして頂くと『応援団長からのスペシャルメッセージ！』というところがあります。そこをクリックして頂くと私の拙い腹話術が見られます（写真1）。あと私の最後のお願いです。3年前公開されたものですが、【ポケモン公式】体験探検ピカチュウ部！「びょういん編」ーポケモン Kids TVというのをYouTubeで見られます（写真2）。これはご覧になった方も多いと思いますが、2023年2月現在、911万回再生で、できれば1000万回再生まで行きたいので、是非まだ知らない人に教えてあげて下さい。

日本の少子化は進みますが、小児医療の集約化もされていきます。こども医療センターは神奈川県が誇る高度なプロフェッショナルの集合体であり、ダウンサイジングすることなく存続すべき組織です。オレンジクラブの活動は患者さん、患者さんの家族そして医療者にとっても、大きな励みと救いの力になります。今後も神奈川県立こども医療センターをよろしくお願い致します。



「オレンジクラブコロナ禍での活動を振りかえって」 オレンジクラブ代表 三木美雪

コロナ禍でのオレンジクラブの活動も、会員の方々が知恵を絞りながら続けてきました。この3年間活動時間が規制され、病棟への立ち入りはできず、未だプレイルームも閉鎖されています。今まで当たり前に出ていたことができなくなりました。

まずは、対面で多くの会員が集合しての会議もできなくなりました。しかしながら、オレンジクラブのたくましいメンバーたちはこのような変化にもめげずに、ZOOM会議に挑戦しました。生まれて初めてオンライン会議を経験しました。今では慣れたものです。お子さんに大人気の総合待合で渡していた折り紙も渡せなくなりました。今では、衛生管理を徹底して袋に入れてお渡ししています。おこさんの笑顔を見るとこちらも嬉しくなります。病棟での活動をされていたフラダンスの方々もDVDを渡したり、肢体施設つばさの木の庭でフラを披露したり工夫を凝らして患者さんたちと交流しました。ホスピタルクラウンさんの窓越しの滑稽な表情はみんな大好きです。お話し会ポポントは、病棟の入り口まで本を届ける事もできるようになりました。何といても、ZOOMでお話し会が再開されました。対面ではありませんがお話を語りことができ患者さんと画面越しでの時間を楽しんでいます。プロのアーティストとの時間を共有するスマイリングホスピタルのメンバーの方も定期的にオンラインで病棟と繋がっています。園芸や、フラワーアレンジメントの皆さんも季節の花々を届けてくれています。お花を見るたびに多くの患者さん、ご家族の皆さんが癒されたのではないのでしょうか。季節の飾りつけも時間を短縮して飾りました。今までと変わることなくお正月の絵馬や、七夕の短冊飾りができたのも作業グループのメンバーの地道な作業のお陰です。患者図書室も利用者が徐々に増えています。年2回のバザーもできなくなりましたが、吊るし雛、手芸、手作りグループが、短時間でミニバザーを開催することを試みました。患者さんご家族や、センター職員さんとの何気ない会話の中に繋がりを感じる事ができました。縫製グループへの病棟からの依頼はコロナ禍でも絶え間なくやっています。ベテランの皆さんは、依頼された縫製を時には家に持ち帰り仕上げてきました。重心施設ひだまりでの衣類整理も再開しています。最近では総合待合でのピアノの演奏もできる様になりました。きょうだいあずかりも限定的ではありますが、再開にこぎつけました。少しずつではありますが、出来る事が増えてきました。

以前と全く同じというわけにはいきませんが、ボランティア活動が継続でき、患者さん、患者さんご家族のお役に立てることが何よりの喜びで、私たちオレンジクラブのメンバーのやる気を駆り立てています。また同じ目的を持つグループのメンバーとの交流も楽しみの一つです。今後感染症の位置づけが、5類へと移行され世間では規制も撤廃されていきます。でも病気のこどもたちが入院、通院されていることも医療センターでは事情が違います。病気の治療を最優先に医療スタッフの方々が日々努力を重ねています。オレンジクラブも、患者さん、患者さんご家族のお気持ちに寄り添えるよう活動を続けていきます。そして1歩ずつ以前の活動に近づいていけることを願い、着実にボランティア活動に邁進してまいります。



《写真で活動を紹介》

正面玄関の園芸班の活動



飾り付けグループ作品 肢体施設への地下 2 階に貼ってあります。今大人気の「銀魂！」



きょうだい預かりのご案内

3月1日から、敷地内の一室を利用し保育士とボランティアがきょうだい預かりを開始しました。

毎週 月(12時～16時) 水・金(12時～17時) 預かり時間は2時間以内

場所 第3駐車場横 旧医師公社2階 「坂の上のきょうだい預かり」

予約制 電話で予約を受付けます。 045-711-2351 内線 5469

受付時間 月火水金 11時～17時



ぽぽんた通信 (58)

きくちゃん

キクちゃんはおはなしおばさんだ。小学校や特別支援学校でおはなしをしている。

小学校も特別支援学校も40年近く通い、子ども達におはなしを届けているが、大人はどうだろう？ ‘大人のためのおはなし会’は図書館等で行っているが1年に1回ぐらいだ。

だから、おはなしってなに？ 本の読み聞かせでしょうか？ って思っているらしい。

おはなしを聞いたことが無い大人がまだまだ多い。

それならきくちゃんがやってみよう、と考えた。

ぽぽんたの本の貸し出し作業が終わって3時頃ごろから10分ぐらいのおはなしを一つ語って聞いてもらった。昨年の9月からなので、7回目になる

聞き方はそれぞれだ。じ～と目を閉じて聴く人、きっとおはなしの中に入り込んでいるのだろう。

目をまん丸くして身体を乗り出して聴く人、笑ったり悲しそうな顔の百面相の人、

うなずきながら聴く人、

ぽぽんたの仲間とは長い付き合いだけれど、いつもと違う表情を見せてくれて語りながら嬉しくなった。ぽぽんたの仲間にはおはなしを語る人もいるので、来月はその人に語って貰おう。

年度末になりボランティアコーディネーターの立場からの振り返り

ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

私に関わらせていただいたボランティア活動を少しまとめてみました。三木代表の振り返りと重なりますので、「安全な活動の取り組み」「コロナ禍の活動」「オンラインイベント」に関しては、割愛させていただきます。紙面の都合上、全部紹介できずご了承ください。

【療養環境の改善の取り組み】院内からは療養環境を改善したいというニーズがありまして、肢体施設「つばさの木」やこころの診療病棟の庭作りをオレンジクラブや企業の社会貢献で取り組みました。どちらのセクションからも、お子さんたちが庭に出ることが多くなり楽しんでいまして、という声を聞いております。つばさの木の庭も、これからオレンジクラブの皆さんが手入れして下さいます。

【オンライン家庭教師の活動】2月号のボランティアニュースで紹介しました、横浜市大の学生さんたちが行っている「one by One」の活動が、「横浜アクションアワード2023」という発表会で**大賞**を受賞しました。発表会の意図は、若者と地域団体のパートナーシップ活動をより飛躍させ広げていく原動力にするもので、取り組みが評価されました。

「one by One」は、クリーン病棟や5西、肢体施設などで常時3人程度週1回オンライン家庭教師を行っています。受賞理由を市立みなとみらい本町小学校の小正校長は、『社会課題に取り組んでおり、入院している子どもたちにとっても大切なことです。学習は手段であり、お子さんと接して、お子さんの力を引き出したり、交流することがとても大切な事で素晴らしい。』と述べられました。



【長年の活動ありがとうございました】この1年、新規の方も多くオレンジクラブに入会されました。一方で、転居や家族の都合や新たな取りくみや体調などの理由で退会される方も多くおられました。長い間の活動有難うございました。この度、転居に伴い退会される作業で活動の枡谷さんとお話を伺いました。「長年外来活動して、そろそろやめようかと思った時、作業の方に声を掛けられ活動続け20年以上になりました。人と人の結びつきを有難く感じます。長い活動の中で一つ自分の汚点と感じていることがあります。それは、作業で短冊を作っているのですが、どんなことが書いてあるかと、ある時見に行きました。子どもの字で『ながいきしたい』と書いてあったのを見て、何で子どもが？と一瞬思いました。すぐにそのように思ったことに凄く申し訳ないと思いました。子どもさんに申し訳ないと思った瞬間でした。」と話されました。こどもの病院で活動するボランティアさんたちの優しい思いがとても伝わった瞬間でした。継続して下さる方も、退会される方もありがとうございました。

【病棟活動再開の目処】まだまだ病棟活動はコロナ前の様にはできませんし、全部がもどるとも思えません。感染制御室や関係者と相談し、病棟プレールームで15分程度ボランティア一人の活動なら病棟と相談して進めることが出来ることになりました。入院患者さんやスタッフ、そしてボランティアの皆さんが感染しないように配慮して、これからの活動の調整に当たっていきます。よろしく願い致します。